



日本サーバス本部会報

2019.9 日本サーバス会長

異常すぎる暑さ、台風、大雨。気候は年々おかしくなり、どんな気候が訪れるのか想像が出来ないこの頃です。会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。台風や大雨の被害もなく、熱中症等になられる事もなく、お元気にお過ごしである事を祈っています。サーバスの活動に常日頃ご協力いただきありがとうございます。

8月15日は終戦記念日です。3月のサーバス国内会議で広島に行き、平和公園等を訪れて、広島の方が心を尽くして核のない平和な世界への取り組みをされている事に感銘しました。終戦記念日を機に、長崎はどんなだろうと長崎に行きました。長崎も広島と同様、二度と同じ過ちを繰り返さないと言う強い決意で、様々な活動をされていました。特に高校生たちは毎日曜日に長崎駅で核兵器廃絶の署名活動に取り組み、集まった署名は平和大使として直接国連へ提出に行くという力強いものでした。被爆地を案内して下さったガイドさんは被爆された方で、「自分ももう歳なので、後どの位出来るかわからないが、二度と僕たちのような事が起こらないように、力を尽くしたい」とおっしゃっていました。

サーバスも第二次世界大戦後、世界平和、善意、相互理解、寛容の促進を図るために作られた組織です。私たちサーバスも多くの人たちと心を合わせて平和な世界を求めて活動していきたいと思います。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

1. 第9回東アジア会議	
第9回東アジア会議の概要	会長
～～参加者からの感想～～	
・モンゴル	佐賀県 S.S
・東アジア会議に参加して (2019年7月14日~7月21日)	福岡県 T.Y
・サーバス東アジア会議とアルタイ山脈への旅	長野県 K.N
・大自然に抱かれて	京都市 H.T
2. Servas Youth Language Programmes	SYLE プロジェクト N.Y & N.S

1. 第9回東アジア会議

第9回東アジア会議の概要

会長

日時：2019年7月15日（月）～18日（木）

場所：モンゴル（ウランバートル市
テルレジキャンプ場）

参加費：300ドル（宿泊（3泊） 食事（朝食、
昼食、夕食各3回） 期間中の交通費、
入場料（伝統フォークコンサート、
モンゴル国立博物館、ガンダン寺）



参加者：韓国 17名 台湾 2名 日本 9名 モンゴル大人 13名（内夫婦 4組）子供 11名
加盟国の内、中国、香港からの参加はありませんでした。

日程

<p>7月15日</p> <p>午前 ウランバートル市のホテルにて日程を確認後バスでテルレジ キャンプ場へ。キャンプ場着後昼食</p> <p>午後 ゲルにてオープニング（自己紹介と各国の活動報告） 屋外にて交流（スポーツ・ゲーム・フェルト細工）</p> <p>夕食後 屋外にて文化交流（各国の衣装を着てファッションショー等）</p>	
<p>7月16日</p> <p>午前 朝食後バスで Red Rock リゾートへ 着後、エリアコーディネーター、会長を除いて希望者は乗馬。 エリアコーディネーター、会長は次の東アジア会議（時期、担当国）、次期エリアコーディネーターについて話し合い。その後乗馬。</p> <p>昼食 モンゴリアンバーベキュー</p> <p>午後 バスでキャンプ場へ 休憩後、バスでウランバートル市へ 夕方 伝統フォークコンサートへ</p> <p>夕食 障がい児センターにて、モンゴルメンバーの手作りの夕食</p>	
<p>7月17日</p> <p>午前 朝食後観光（モンゴル国立博物館、ガンダン寺）</p> <p>昼食 シャングリラホテルにて</p> <p>午後 ショッピング</p> <p>夕食後 クロージング</p>	
<p>7月18日</p> <p>朝食後解散</p>	

会議での決定事項

- ・次の東アジア会議は2022年台湾で行う。場所、時期は台湾が決め、各国に連絡する。
- ・次の東アジアコーディネーターは台湾が受け持つ。新しいコーディネーターが決まったら、各国に知らせる。
- ・台湾提出の「どのようにして若い会員をサーバスに増やすか」については、東アジアだけでなく、国際サーバス全体の問題である。良い案があったら知らせあう。

その他

日本は参加者持参のお菓子や日本的なものと日本サーバスの活動報告を参加者に配布しました。韓国から韓国語ですが活動報告の冊子をいただきました。

～～参加者からの感想～～

モンゴル

佐賀県 S.S

サインバノ！こんにちは！ 日本に帰ってからしばらくはこの言葉が頭の中で繰り返されました。広い大地と爽やかな風、犬の遠吠え、鳥の羽ばたき、馬の鼻息、時折埃っぽい砂漠の風、草原の中のハーブの香り、コッテリした肉の脂の匂い、今でも私の五感に焼き付いています。

今、現実に戻り、本当にあの場所は夢ではなかったろうかと思えます。

私達日本人メンバーは7月半ばより3日間に亘りモンゴル、韓国、台湾、日本のメンバーによる東アジアサーバス会議をモンゴルで行いました。

テレルジのレッドロック、ゲルに泊まり、交流会では自己紹介、各国の出し物、ダンス、ファッションショー、ゲーム、ハイキングなどを楽しみました。モンゴルのサーバスメンバーがフルに食事の準備、企画などを行っていただきました。

モンゴルと言えばチンギスハンやフビライハンと言った有名な人物の名前を聞いたことがあり、また日本にも大きな影響があったということは知っていましたが、今回モンゴルで知ったのはこれまでのモンゴル大帝の時代を経て、厳しい歴史や宗教、またロシアの影響が大きかったこと、数十年前までチンギスハンという言葉がモンゴル人が口に出して言えなかったという事でした。



後半は九州メンバーでリトルゴビそして、かつてのモンゴル帝国の首都カラコルムに行きました。カラコルムではラマ教(チベット仏教)のエルデネ・ゾー寺院、朝青龍が開発中のリゾート地、朝ランド(Asa Land Resort)を訪れ、途中乗馬、乗ラクダを経験しました。食事に関しては馬乳酒や馬のミルク、またホーシュと言いうラム肉を詰めた餃子のようなもの、とにかく肉、肉、肉。

どうして肉を残すの？食べないの？と何度も聞かれては「申し訳ないなあ」と思いながら、泣く泣く残してしまいました。

また人生初めてのトイレ経験、道路に傍に板で目隠しをしていますが、反対から見ると丸見え。下に落ちたら大変という経験をさせていただきました。この経験は後にも先にも無いことを願っています。

郊外のゲルの隣には車やソーラーシステムがあり、人々はそれでテレビを見たり、携帯の充電をされていました。また、馬ではなくバイクで羊や山羊を追う姿や、観光客が放置したとみられるゴミの山。大自然の草原や砂漠との間にギャップがあることを感じました。

準備企画をしてくださった多くのサーバスメンバーの方々、また子供さん、モンゴルのHgさん、後半案内をしてくださったHgさん、運転手さん、多くの方々に感謝です。

バイルッチャ！ありがとう！

東アジア会議に参加して(2019年7月14日～7月21日) 福岡県 T.Y

モンゴルで開かれた東アジア会議に日本サーバスより9名の会員が参加し、私たち九州サーバスからは6名が参加をしました。7月14日福岡を16:30に発ち韓国インチョン経由でモンゴルウランバートルに21:30頃着きました。空港にはモンゴルの会長Hgさんが迎えに来てくださっていました。Hgさんとは今年に入ってからモンゴル訪問について何度もメールでやり取りをしていましたので随分前からの知り合いのような感じでした。空港から宿泊施設のKhuvsqul Lake Hostelまでお迎えの車で1時

間以上かかり到着。そこには何度かMeetingなどで顔を合わせた韓国の方たちがすでに到着されていて、久しぶりの再会を喜びました。

次の日は2時間ばかりバスに揺られ、大きな岩が並ぶ景色が特徴的なテレルジ国立公園レッドロックに行きました。そこで大きなゲルでミーティングをして、参加国のモンゴル、韓国、台湾、日本の代表が自分の国のサーバスの実情を語り、参加者全員が自己紹介しました。夜はダイナミックなモンゴルバーベキューを楽しみ、色々な方と交流しました。続いて、各国の伝統衣装の披露やファッションショー、踊りなどで盛り上がり、日本チームは法被でカスタネットや鳴子を持ち「諫早のんのご節」を踊り、拍手喝さいを受けました。その夜は初めてのゲル体験でした。3人部屋で同じ国の人同士にならないように割り当ててありました。ゲルは宿泊用になっているので思ったより快適に過ごせました。



次の日16日は午前中代表の方たちがMeetingをしている間、希望者は大自然の中、乗馬をしたり散策をしたりして過ごしました。お肉たっぷりの昼食をいただき、テレルジを後にしてウランバートルに戻りました。ウランバートルではTraditional Folk Concertに行き素晴らしいモンゴルの伝統芸能を見ました。草原のチェロと言われる二弦

からなる馬頭琴、モンゴル独特の歌唱法であり、緊張した喉から発せられる笛のような声のホーミー、豪華な民族衣装での歌、踊りを堪能した1時間半でした。

ウランバートル最後の日17日は、国立歴史博物館、モンゴル最大級のチベット仏教寺院であるガンダン寺を訪れました。ガンダン寺は1727年に建てられて以来、歴史の中で封鎖されたり破壊された事が度々あったそうです。中には高さ25mの観音菩薩像、マニ車(チベット仏教の仏具で表面にはマントラが刻まれており、中にはお経が書かれた紙が入っていて、それを回すとお経を唱えた事と同じだけの徳がある)参拝客が端からくるくる回しながら歩いていました。

この日の夜は子どもたちも参加し、お別れの夕食会が開かれました。皆が思い思いに歌ったり、挨拶をしたりし、私たちは皆で「幸せなら手をたたこう」を歌い、会場の全員が手をたたいたり、足踏みをしたりして参加してくれました。

翌日18日は九州メンバーだけで2泊3日のツアーに出かけました。最初の1日目はウランバートルから280k西に行ったlittle Gobi(本当のゴビ砂漠はそこからまた南に400kも行くのだそうです)でラクダ乗りや砂漠を体験し、2日目はかつてのモンゴル帝国の首都カラコルムへ(現在はハラホリンと呼ばれる)。モンゴル最古のエルデネ・ゾー寺院、博物館などを見学しました。

モンゴルは果てしなく広がる大草原に遊牧民が暮らし、世界一人口密度の低い国とされていますが、首都ウランバートルには人口の半数近くが集まり、多くのビルも立ち並ぶ交通渋滞の多い都会でした。

(国土は日本の4倍で人口は約305万人)大草原の中に道路が1本延々と続き勿論信号はなく、遠くにゲルがぽつんと見えます。一つのゲルにお邪魔をしました。馬のミルク絞りをを見せていただいたり、味見させていただいたりしました。(思ったより甘かった)ゲルの外には発電のための太陽光パネル、衛星放送を受信するパラボラアンテナなどが設置されていました。これで何も無い大草原でもテレビや携帯電話が利用でき、モンゴルでは携帯電話の普及率は100%を超えているそうです。



今度の旅ではいろいろモンゴルの事を知る事が出来ました。モンゴル会長のHgさん初め会員さんに

はお食事の準備や案内、送り迎えなどで大変お世話になりました。私たちの2泊3日の旅も優しい運転手さん、そして日本語で説明してくださったもう一人のHgさんのお陰で思い出深い旅となりました。

私の憧れだった大草原に身を置いた1週間でした。また貴重なこの旅が私の思い出のページに加わりました。Hg 会長、ご参加の皆さまいろいろお世話になりました。

心よりお礼申し上げます。

サーバス東アジア会議とアルタイ山脈への旅

長野県 K.N

この夏モンゴルで開かれた「サーバス東アジア会議」へ参加しました。我が家へ滞在した4人のモンゴルサーバス友人に会うのが楽しみでした。又2018年5月に大津での日本モンゴル障がい児家族交流会に参加した障がい児たちとそのお母さんに会うのも目的でした。3日間の集まりは首都ウランバートル郊外の野外キャンプ・ゲルの中で各国会員との交歓会で始まりしました。モンゴルのサーバスはやっと会員が10名になったところですが、皆若くてはつらつとしていました。Hg 会長の大変な努力でこの会議が企画・実施されました。



子供たちの絵入りバック手提げ



ティーハウスで子供たちと



野の花

その後に続くスポーツ遊びやフェルト作品作りも会員とダウン症児やその保護者の方々がリードしてくれました。彼らは実にアクティブで芸達者！圧倒されっぱなしでした。翌朝には自然豊かな草原を散策しました。冷気の中で多くの高山植物が可憐な花を咲かせていました。

何より感激したのは彼らの夢であった「ティーハウス」がウランバートル市街にオープンしていた事です。そこで参加者一同昼食を取り、彼らの手芸品を購入しました。

会議後5日間モンゴル西北部のウブス湖（モンゴル最初の自然世界遺産）とアルタイ山脈（4500m）と氷河をメンバー3人で旅しました。自然は美しく感動の連続でした。

草原にはロシアン・モルモットが走り回り、花々が咲き乱れていました。ホテルや旅行者用のゲルも全くありません。私たちは遊牧民のゲルに泊めてもらいました。彼らはやぎ、馬、ヤクと生活を共にし、食料もそれらの肉と乳製品だけで、わずかに小麦粉があるだけです。野菜はジャガイモすらありませんでした。2017年7月にゴビ砂漠を1週間旅しましたが、最低限の宿泊施設（ゲル）と食事（豆と肉中心）が準備されていました。しかし今回は悪路といい、食事



10.5kgの鷹



アルタイ山脈と氷河

といい、過酷な旅でした。2人の仲間に支えられて乗り切ることができました。こんな旅は2度とできないかな？と思うと忘れられない貴重な旅でもありました。

大自然に抱かれて

京都市 H.T

日本からの参加者9名の内、Iyさん、Knさん、私の3人で、東アジア会議の前後を含めて同じ日程で行動しました。

私たちは会議の前日、Hgさんのお兄さんのSyさん宅にステイしました。モンゴルでは母親が仕事を持っていると、子供は祖父母が世話をする事がよく行われていて、お兄さん宅でもお兄さん夫婦と孫娘が迎えてくれました。折り紙等で楽しく遊んだ後、夕食には体に優しいようにと雑炊のような温かい料理、朝は元気をつけなくてはと豪華メニューでもてなして下さいました。

さて会議、会議以前のモンゴルの会員は6名でしたが、会議が始まるまでに10名にと言う目標を立派に果たされ、10名の会員が総力をあげて素敵なプログラムを進めて下さいました。その中には日本との交流を通じてメンバーになった人もいて、夏休み中で子供たちも多く参加し、久しぶりの再会を喜び合いました。モンゴルは若い会員さんが多く、テルレジのキャンプ場では元気いっぱいのスポーツプログラム、高齢者の日本人は必死に頑張ったという感じでしたが、何よりも自然の中というのが魅力でした。このキャンプ場には2013年から3回来ていますが、モンゴルは観光には力を入れていて、行くたび毎に美しく近代的に整備が進んでいます。ウランバートルに帰り、17日の夕食は障がい者センターでモンゴルの方の手作り料理。障がい者センターについては日本で交流会をした時に、いろいろ助言を頂いている日本の先生方に相談されていたので、それがカフェレストラン&障がい者の手作り品のショップという形で実を結んだのかと嬉しい気持ちでした。



障がい者センター

会議中一番「えっ！」と思った事は、プログラムにも含まれていた全員でのディスカッションが、その日になって、エリアコーディネーターより「会長だけで短時間で相談しよう」と言われて無くなった事です。「会議なのに全員討議が無いなんてどういう事」とびっくりしてしまいました。

日本サーバスは近畿支部が中心となって、モンゴルの障がい児たちの良き未来のためにモンゴルと交流を行ってきました。Hgさんより、「日本としていたような障がい児家族交流会を、次は東アジア会議加盟国の他の国としたい」と希望が述べられ、韓国が引き受けられました。私たちの行ってきた事が、このような形で実ってとても良かったです。

今回一番嬉しかった事は、モンゴルの会員が10名になってモンゴルもサーバスのメンバーカントリーになった事です。

会議後、私たちは、又、Syさん家族のウランバートル郊外の別荘にお世話になりました。夕食を終えてHgさん達は帰られ、Syさんご一家は翌朝来られるので、夜は私たちだけ。そのこと自体は問題では無かったのですが、とんだ事が起こりました。私たちが外に出た後、玄関の戸がバタンと閉まり、屋内に入れなくなってしまいました。開いている窓もなく、一晩中寒い屋外で過ごすなんて出来ません。3人いたのがせめてもの慰め、1人だったら泣き出してしまう所でした。近くに住む人の家をノックして何とか状況を伝えて見に来てもらいました。でもどうしても出来ない！ Hgさんに連絡してくれ、そこいら辺をうろうろされてしばらくすると、「がたん！」と音がして何と彼が家の中から玄関を開けてくれました。施錠の甘い窓を揺らして鍵を開け、そこから家に入って玄関を開けてくれたのです。ほんとに感

謝。この騒ぎのために翌朝の予定を早めて Sy さん一家は夜遅く来て下さいました。ほんとにお騒がせし、ご迷惑をかけてしまいました。



ウブス湖

19日～23日、私たちはモンゴル唯一の自然世界遺産であるウブズ湖や、カザフ族が多く住むロシアとの国境のバヤンウルギーへ行きました。まず、オーランゴムまで飛行機、その後はジープで川の中や草原を横ぎり、道なき道を進む事約2時間、ウブス湖に着きました。限りなく透明の水、西は氷河を抱く山々、南は砂漠やステップ、果てしない大きさです。夏休み中とあってウランバートルから車で来ている人がいました。2～3日かかるそうです。豚をさばいて湖岸でバーベキュー、私

たちも仲間に入れて下さいました。車に生きているヤギが積まれていたので聞くと、次の食料との事でした。レンタカーやお店の少ないモンゴルの旅行事情を知りました。次はバヤンウルギーへ。少し飛行機を利用した後、又、ジープで美しい花、珍しい鳥、動物を見ながら大きな自然を堪能し、川べりの宿泊のゲルへ。そこはただゲルがあるだけでトイレもありません。あるのは広大な自然、川の流れ、飼っている牛、馬、羊、ヤク等の動物でした。ゲルの家族には5か月の赤ちゃん、夏休みで帰ってきた高校生の娘さんがいて、一緒に折り紙等をしました。山羊や牛のお乳を絞る時間が決まっています、その時間になるとどんな事をしていても中断してお乳を縛りに行きます。「モンゴルでは全ての事が天気と動物の様子で決まる」と言われた事を思い出しました。ジープに乗って氷河を見に行ったり、カザフ族のゲルに鷹を見に行ったり、大自然の中で、いろいろな事を楽しみました。モンゴルの良い所は他の文明国のように観光客がいなく、大自然が残っていて、その懐に抱かれる事です。



馬乳搾り

さて、大満足してウランバートルに帰ろうと空港へ行った所、一杯の人。天気が悪くて昨日から飛行機が飛んでいないとの事です。私たちは翌朝日本への飛行機に乗るので、乗継ぎが出来るかひやひやです。隣町の空港からはウランバートルへの飛行機が飛んでいるとの事で、ツアー会社の責任者がてきぱきと事を運んで下さり、ウランバートルで予約したホテルに行く時間はなかったものの、日本への帰国便には間に合って、大満足の旅でした。

大地に根を張って生きている人たち、旅行社を立ち上げ事業を発展させている人たち、いつものサーバス旅行とは一味違う大自然とそこに生きる人たちの力強さに感動を覚えた旅でした。

2. Servas Youth Language Programmes

SYLE プロジェクト N.Y & N.S

本国会報 2019 年 5 月号で SYLE について紹介しましたが、内容が新しくなったので、改めてお知らせします。大いにご利用下さい。利用しようと思われる時は、サーバスユース部会長までご連絡下さい。

Servas Youth Language Programmes

Servas Youth Language programmes では若いサーバスのメンバーがほかの文化に自分が入り込むことで言語の知識を広げることが



できます。プログラムはホストファミリーや地域での生活を毎日経験するという内容を含みます。この体験は寛容と協力の精神で提供されるおもてなしを伴うものです。

Servas Youth Language Experience (SYLE)

SYLE は 18 歳から 30 歳までのサーバスメンバーのためのものです。目的はこのプログラムに参加している期間にホストファミリーとの生活を共にすることで、さらに深い言語の学びと文化の認識を提供することです。これは参加したいメンバーの興味に基づいて、受け入れ可能な場所で行われます。受け入れ形態は国によって違いますが、若者はふつう 1 月までのうちに一家族以上のサーバスホスト宅に滞在することになります。参加者はステイしている間に提供された活動を通じて文化の差異、人権や平和についての問題を研究することが求められます。

Junior Servas Youth Language Experience (JUNIOR SYLE)

Junior SYLE は、10 歳～18 歳のサーバスメンバーのためのものです。参加者は、相互ホームステイプログラムとなっており、お互いの家族間での交流プログラムです。参加者は、未成年のため、両親及びホストファミリー間での事前合意のもとに参加可能となります。訪問期間は、通常 2～3 週間とし、異文化体験を主目的としています。参加者は言語能力を向上させながら、他文化への理解を深めることが求められます。

Servas language experience (SLE)

SLE は、30 歳以上のサーバスメンバーに対し、語学学習の機会を提供するプログラムです。また、語学学習だけではなく、ボランティア活動や Servas におけるプロジェクトに参加することも可能です。

編集後記にかえて

この頃よく SI Peace Secretary の P. L さんより、International Day of Peace についてのメールが来ます。私は International Day of Peace (国際平和デー) をあまり意識した事が無かったので、内容もわからず、何の取り組みもしていません。日本サーバスの支部長さんに、「支部や支部会員さんで何かされている事があればお知らせ下さい」とお聞きしても返事のない所を見ると、皆さんも私と同じようなあとと思っています。インターネットで見ると、「国際平和デー、又は、国際平和の日とは、国際連合で定められた記念日であり、毎年 9 月 21 日とされている。非暴力と世界の停戦の日として、敵対行為の停止を世界の国々と人々に呼び掛けることを目的としている。毎年この日には、国際連合本部ビルで平和の鐘が鳴らされる。この鐘は、当時の国連加盟国 60 ヶ国の子供から集められた硬貨で铸造され、日本政府から国連に寄贈されたものである。鐘には、「世界絶対平和万歳」と铸込まれている。」と書かれています。さらに日本での取り組みを調べると「広島市では、広島市職員や広島県原爆被害者団体協議会らの代表が平和記念公園内の原爆死没者慰霊碑に献花し、正午に参加者全員で 1 分間の黙祷を捧げるとともに、「平和の鐘」を鳴らし、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を祈念します。」とありました。さて、私はその日に何をしようかと考えました。非常に簡単ながら、「平和について考える時間を持つ」事から始めたいと思います。